



日本共産党・前都議会議員 東京民報おりにみ版

# そねはじめレポート

2012年2月22日発行 第 33 号

そねはじめ事務所

114-0032

北区中十条2-11-6

Tel: 3907-1135

Fax: 3906-3225

## 放射能をごまかして2012五輪立候補

### 石原都政

# 都民は「やるべきは防災」と反対の声が8割

2月16日、2020年オリンピック立候補の申請ファイルが出されました。昨年石原知事が立候補を表明した際に、都庁の「都民の声」課に寄せられた都民の声は「賛成」が2割、反対が8割で「今やるべきは復興支援と都民の防災」の声が圧倒的でした。申請ファイルはこの声にどう答えたか・・・

### ◆国内向けには「日本の復興」海外には「スポーツ振興」◆

申請ファイルには、2020年の五輪は「日本の復興の目標になる」と開催機をうたっています。I O Cへの英文・仏文の本文では「スポーツ振興」とされ、苦肉のすり替えをしています。

### ◆震災復興と無縁の高速道路臨海開発に巨費が・・・◆

インフラ整備計画を見ると会場の臨海部と石原知事肝いりの高速道路など開発ばかり。「復興の目標」とはカムフラに過ぎませんでした。

### ◆悪名高い屋上十八mの測定で、「放射能は常時測定」と豪語◆

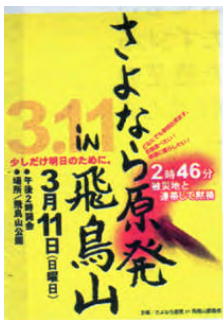
さらに重大なのは、東京の「4年以内に7割」という直下地震の切迫性や津波の危険に対策も示さず。原発の放射能汚染では、「常時大気中の放射線量を自動測定」していると、役に立たないと批判を浴びた地上十八mの屋上の測定等で放射能のリスクは小さいと決めつけていることです。

共産党都議団は立候補断念と4千億の五輪基金の都民活用を訴えます。



オリンピック会場計画はメインスタジアム以外前回とほぼ同じ約1兆円の「金食い虫」

## 3・11 さよなら原発 in 飛鳥山に皆さんのご参加を



実行委員会が作成した区民集会のポスターです。自宅や近所にはり出せる方はご連絡を！

震災・原発事故から1年の3月11日(日)に飛鳥山公園で行われる区民集会の実行委員会ではプログラムや集会後のパレードの企画も決ってきています。

黄色いハンカチの目印のもと、午後2時開会で区内の原発無くす運動の方がたのアピールや音楽。参加者全員での2時46分の黙祷と「ふるさと」の合唱。希望者は王子駅前公園でのパレードも・・・

ぜひ一人でも多くの区民の方がご参加いただくよう呼びかけています。

# 党都議団の放射能測定器で水元公園 土壌から高い濃度のセシウムを観測

「放置せず直ちに除染を」「全都立公園・都立学校の測定」を知事申入れ

2月21日、共産党都議団は記者会見を開き、2月15日に都立水元公園の土壌を採取し、都議団が最近購入した放射線を核種別に測れる測定器(下の写真)で、国基準を上回る高い濃度のセシウムを検出したことを発表しました。

## ◆「空中」理由に放置

水元公園は都の調査でも空中放射線で



7  $\mu$ Sv(北区基準の28倍)の高い濃度を発見しながら「空中放射線の除染基準以下」を理由に都が放置してきました。

## ◆土壌の測定値は国基準の2倍以上

都議団の測定器は食料や土壌等からの放射線量を直接測定するもので、測定結果は同公園の各所で国の基準8000ベクレルを上回り、高い場所は3倍近い値が出ました。

都議団は結果を元に都の全都有施設測定と必要な除染を申し入れました。

採取地点試料	放射性物質濃度 Cs134+Cs137 (Bq/kg)
メタセコイアの森の表面土壌	7,770~9,340
ドックラン南東側の土壌	13,300~14,000
野鳥観察舎入口の土壌(落葉混入)	21,700~23,300
駐車場南側植込み内の落葉	5,320~8,290
メタセコイアの落葉	1,180~2,340

# 消費税増税なしで社会保障充実の提言をとどけ申入れ

2月7日に発表された日本共産党の、“消費税増税をせずに社会保障の充実が可能”とする経済提言を持って、池内さおり12区青年部長、そねはじめ前都議、遠藤地区委員長、野々山区議など区議団が精力的に区内の商店街や諸団体を訪問し、野田政権の10%増税法案を粉砕しようと呼びかけています。

21日に赤羽駅前と一番街の振興組合を訪ね、理事長さんと懇談。消費税を転嫁できない苦しい実情をお聞きました。

3月25日に「まちコン」も計画し活性化に取り組んでいる組合の取り組みを積極的に応援するとともに、JRの「エキュート赤羽」による強引な“駅なか商法”についても意見交換しました。

(写真は後援会の方とポスター貼りをするそね前都議)



## そねはじめ交友録 <<その二十七>>

### 絵画の魅力を教えてくれた天野幹夫さん

1984年荒川区から現在の赤羽台のマンションに転居して大規模改修に関わり、同じ団地に住む画家の天野幹夫さんと知り合いました。

愛知芸大在学中メキシコに留学し現地では空手普及の功労者として有名です。留学生同士で結婚した夫人が働き「生活に追われたらいい絵は描けない」と画業のみで暮らす彼を支えました。おおらかで酒好き。私も夜明けまで飲みながら、絵画の“魅力”は写実から離れ作者の生のエネルギー表現で高みに達するという抽象画論を聞き、また画家の最高の誉め言葉は「この絵はすごい」より「この絵には参った」であることなど裏話も知りました。

何よりも、わが子が高校の時、油絵を手ほどきしてくれたことが美大進学につながり、その後の彼女に深い救いを与えてくれています。

私がゆいいつ天野さんから買った抽象絵画。

